

第 19 回日本口腔ケア学会総会・学術大会  
第 2 回国際口腔ケア学会総会・学術大会合同会議

2022 年 4 月 23 日  
大阪医科薬科大学

コンセンサスカンファレンス 1 「薬剤師と口腔ケア」

報告書

薬剤師部会長 山浦克典

背景：

近年、薬局・薬剤師は保険調剤のみでなく、国民の生活習慣病をはじめとする疾病予防においても貢献することが求められている。「健康サポート薬局」は 2016 年より薬機法の定める薬局機能分類の名称であり、厚生労働大臣の定める基準に適合し、健康サポート機能の実績があり、所定の研修を修了した薬剤師が常駐するなど、地域の医療機関や介護・福祉資源と連携し、地域住民の健康維持・増進に貢献しうる薬局のみが届出の後に標榜できる。しかしながら薬剤師の健康サポート活動として、口腔ケアによる口腔疾患の予防においては、これまで専門外としてあまり注力して来なかったのが現状である。特に、歯周病は糖尿病や心筋梗塞をはじめとする多くの全身疾患の増悪因子となることが知られているが、日本人の歯周病罹患率は年々増加している。薬局薬剤師が歯周病をはじめとする口腔疾患の予防と早期発見にも注力し、重症化する前に歯科医師へつなぐ役割を果たすことは、国民の全身疾患をも予防し、医療費削減にもつながると考えられる。一方、口腔ケアの専門家である歯科医師側から見た、薬剤師が取り組むことで有効と考えられる口腔ケア領域および薬剤師との連携の意向については不明である。

目的：

地域住民の口腔ケアにおいて歯科医師が薬剤師に期待する範囲について、また歯科医師と薬剤師との連携についての意向を明らかにする。

方法：

全国の歯科診療所に勤務する歯科医師 1,000 名を対象に、薬剤師が地域住民の口腔ケアに取り組むにあたり期待すること、および口腔ケアの啓発活動における薬剤師との連携についての考えを調査した。

結果：

有効回答 143 件について解析を行った。歯科医師が薬剤師に対し身に付けておくことを期待する知識として、「義歯の管理」(68%) および「口腔保湿剤の使い方」(65%) が共に高く、「歯ブラシの使い方」、「スポンジブラシ・舌ブラシの使い方」、「唾液腺マッサージ、舌・頬の体操」が 4 割と続いた。歯科医師の指導・訓練のもと薬剤師に期待する患者への技術指

導能力については、義歯の管理（64%）、口腔保湿剤の使い方（60%）、歯ブラシの使い方（48%）、スポンジブラシ・舌ブラシの使い方（48%）の順に歯科医師の希望が高かった。歯科医師の指導・訓練のもと薬剤師が実施して良いと考える技能は、義歯の清掃（69%）、口腔内の観察（62%）、口腔保湿剤の塗布（48%）、唾液腺マッサージ、舌・頬の体操（45%）の順に高かった。口腔ケアの啓発活動に薬剤師と連携して取り組みたいと肯定的に回答した歯科医師は94%に及んだ。

まとめ：

本コンセンサスカンファレンスでは、調査結果をもとに、薬剤師が取り組む口腔ケアの在り方および歯薬連携について、パネリスト4名の歯科医師、病院薬剤師、薬局薬剤師それぞれの立場からの考えに加え、フロアーから発言のあった複数の歯科医師の見解を踏まえ以下のコンセンサスを得た。

1. 薬剤師は口腔内フィジカルアセスメントの知識・技能を修得することにより、薬剤誘発口腔症状の早期発見に努め、薬剤師の強みである薬剤の知識を活かし、原因薬剤処方時の薬学的管理および処方変更の提案を通じて多職種と連携して、口腔ケアに貢献すべきである。
2. 薬剤師は口腔衛生材料供給の担い手となるべく、製品知識を活かし、義歯安定剤の適正使用を主軸に義歯の管理・洗浄方法の指導、ならびに口腔乾燥に対処するための口腔衛生材料の選択と使用方法に関する知識・技能も修得し、これらの実技指導を通じて国民の口腔健康維持・増進に歯科医師と連携し貢献すべきである。

以上